



もうすぐ 供用開始！

市役所前電停が

より便利に！



●市役所前・福井鉄道／撮影 林照／20171105

☆☆活動報告☆☆

10 月 7 日～9 日 福井市環境フェア

12 日 ROBA10 月例会・理事会

11 月 9 日 ROBA11 月例会・理事会

☆☆今後の予定☆☆

11 月 27 日（月） すまいるバス検討会議

12 月 8 日（金）～9 日（土）

全国バスマップサミット（甲府市）

12 月 14 日（木） ROBA12 月例会・理事会

1 月 12 日（金）～13 日（土）

LRT 都市サミット（松山市）

13 日（土）～14 日（日）

全国路面電車サミット（松山市）

善光の一言 ⑤

世界一のクリスマスツリー

クリスマス研究会員？の善光です。またクリスマスの季節がやって来ますが、みなさん、家でクリスマスツリーを飾られる方はおられますか？ 今年の 12 月、神戸では、“世界一のクリスマスツリー”が出現します！ それ「生木」です。この木は、富山県氷見市に生育していたもので、プラントハンターの西畠さんが探し当て、今回の企画に。このプロジェクト、輸送費などの事業費は 3 億円。何と自腹だそう。みなさんも開港 150 年を迎える神戸港に、推定樹齢 150 年の巨大クリスマスツリーを見に行かれてはいかがでしょうか。



●地元のお寺で講演する西畠さん



●特殊車に積み込まれた“あすなろ”の木

10月14日（土）に、福井駅前通りの「ふく+（ふくたす）」で、福井公共交通アイデアソンが開催されました。福井県、ふくい産業支援センター、チームふくいデータチャレンジの主催、UDC2017実行委員会の共催で、誰でも閲覧することができるオープンデータを活用しながら、公共交通を活かしたまちづくりや利用促進のアイデアを出し合い、それを実現につなげることを目的としています。実際にアプリをつくるプログラマーや、オープンデータの整備に携わる方、行政や交通事業者の情報公開・広報担当、それにまちづくり関係の方や公共交通に関心を持った方など、40名ほどが集まりました。ROBAからも内田会長、清水事務局長、林博会員、門会員と筆者の5名が参加しました。公共交通利用促進のアイデアテーマが5つ（A班：若者（20～40代）の利用率向上、B班：主要施設（観光地含む）への公共交通での移動、C班：高齢者・バリアフリー、D班：公共交通機関の乗り方、⑤E班：マイ時刻表）に分けられていましたので、ROBAからの参加者5名がそれぞれのテーマにわかれて参加しました。私は「②主要施設（観光地含む）への公共交通での移動」をテーマにしたB班に参加しましたので、報告します。なお、内田会長がA班、門会員がC班、清水事務局長がD班、林博会員がE班になりました。

最初に東京大学空間情報科学研究センターの西沢先生が「公共交通データの利活用方法」を紹介いただきました〔写真1〕。西沢先生は国土交通省の職員で、現職に出向されていますが、国土地理院時代には国土数値情報にバス停データを追加する整備担当で、その頃には筆者や林博会員もデータ整備のお手伝いをした頃からのおつきあいがあります。また、のりのりマップをもとに福井のマイ時刻表作成のためのプログラムを作成いただきました。その後、バス停データは更新されておらず、現状と異なる部分もありますが、オープンデータ化によって誰でも閲覧、更新ができるようになり、活用方法も広がっていくと期待されるということです。福井県では鯖江市が早くから整備をはじめ、県が普及活動を行い、現在は全市町村で整備が進められているそうです。



写真1：西沢先生の講演

次に各班に分かれてアイデア出しを行い、中間発表、他班との意見交換後、最終発表となりました。10時に開始され、閉会は18時と長丁場でしたが、議論後にとりまとめ作業をしていると、発表時間ぎりぎりまでかかるほど熱論がかわされていました。B班では主要施設に公共交通で行ってもらうために、福井の鉄道網はそれなりに整備されてきて一定の情報は提供されているが、駅までのアクセスを担うバスや自転車等の環境整備と情報提供が欠かせないという論点で一致しました。そこで、バス停を知らないで検索できないしくみではなく、行きたい公共施設や観光地を選択すると、現在地はスマホの位置情報でわかるので、目的地までの行き方が検索できるアプリによって、公共交通の存在を知ってもらうことが重要と考えました。到着時間や出発時間、バスや自転車などの使いたい交通手段、予算などを入力すると、目的地までの地図、乗り換えを含む行き方、発車および到着時刻、料金などが検索できるようにします。現在ある検索サイトはバスの情報が検索できない、そもそも最寄駅や最寄バス停を知らないで検索できないなどの課題があるので、公共交通や公共施設のオープンデータを活用して、便利な検索アプリが作れるのではないかと提案です。

もうひとつの論点は検索できても、そもそも鉄道やバスが不便だと利用されないのではないかと課題です。駅まで距離がある場合、自宅から車や自転車で駅まで来て、駐車場に停めて列車に乗り換えるパーク＆ライドという方法があります。しかし、自宅からバス停まで遠い場合、バス停まで車や自転車で行ってバスに乗り換えるということはあまりしません。それは、バス停に駐車場が整備されておらず、バスを待つのにベンチや屋根もな

く、いつバスが来るかもわからず、待合環境が整っていないからです。福井にはエルパのように、駐車場も整備され、バス停にベンチや屋根があり、待っている間や帰りなどに買物ができるという良い事例があります。バスを使ってもらうには、乗り換えるためのバスの拠点が必要と考えました。福井駅から概ね 30 分に 1 本の幹線を通し、エルパの他、すかつとランド、済生会病院、赤十字病院、ベル、プラント 3 にバスの乗換拠点を設け、環状の拠点間バスで結びます。拠点からは支線のバスが接続し、レンタサイクルやカーシェアリングを整備し、高齢者向けには電動カートも貸し出して、公共施設や観光施設への交通手段とします。目的地が駅から遠い場合も公共交通を使ってもらえないので、指定の施設やスポットで貸し借りすることもできるようにします。幹線を結ぶ鉄道と高頻度高品質のバス、拠点で支線のバスやカーシェアリングやレンタサイクル、レンタルカート、接続タクシーに乗り換えて目的までスムーズに行くことができる。もちろん、料金は乗り換えのたびに支払うのではなく、一定のゾーン内なら乗り換えても同じ料金体系とする。これらを含めた公共交通ネットワークの利便性を高めて、目的地まで迷わず行けるように情報提供することで、利用促進につながるのではないかとというのが B 班の提案でした [写真 2]。

その後の意見交換で観光地までの交通手段が不便、B 班の目的地検索と D 班の乗り方案内アプリ、E 班のマイ時刻表が連動すれば便利、拠点は道の駅が使えないか病院を拠点にしても大丈夫なのかといった意見が出ました。観光地について、東尋坊、永平寺、恐竜博物館は駅から連絡バスがありますが、朝倉氏遺跡は越美北線の本数が少ないうえに、一乗谷駅からのバスもありません。福井駅からの直行バスも良いですが、観光地間を移動するのに全て福井駅に戻らないと行けないというのは魅力が半減します。公共交通で結び、回遊性を高めたいところです。乗り方案内アプリやマイ時刻表との連動は、検索結果が表示されれば、その経路の乗り方が閲覧でき、マイ時刻表を作成できるようにすれば便利です。バスの拠点として道の駅を活用したいところですが、福井で幹線バスの近くには道の駅がないようで、今後設置する際は計画的に拠点となるよう考慮して設置したいところです。病院を拠点にするのは生活する者にとっては便利だと思うのですが、にぎわいの拠点としてはすぐわかない面もあります。ただ、済生会病院も日赤病院も病院内に喫茶店が併設されており、普通の病院内でバスを待つのは違い、待つ時間も苦になりません。拠点化の際に駐車場を増設すれば病院や喫茶店側にもメリットがあり、幹線バスと支線バスが整備されれば、送迎バスの削減にもつながります。最終発表ではいただいた意見も集約する形で

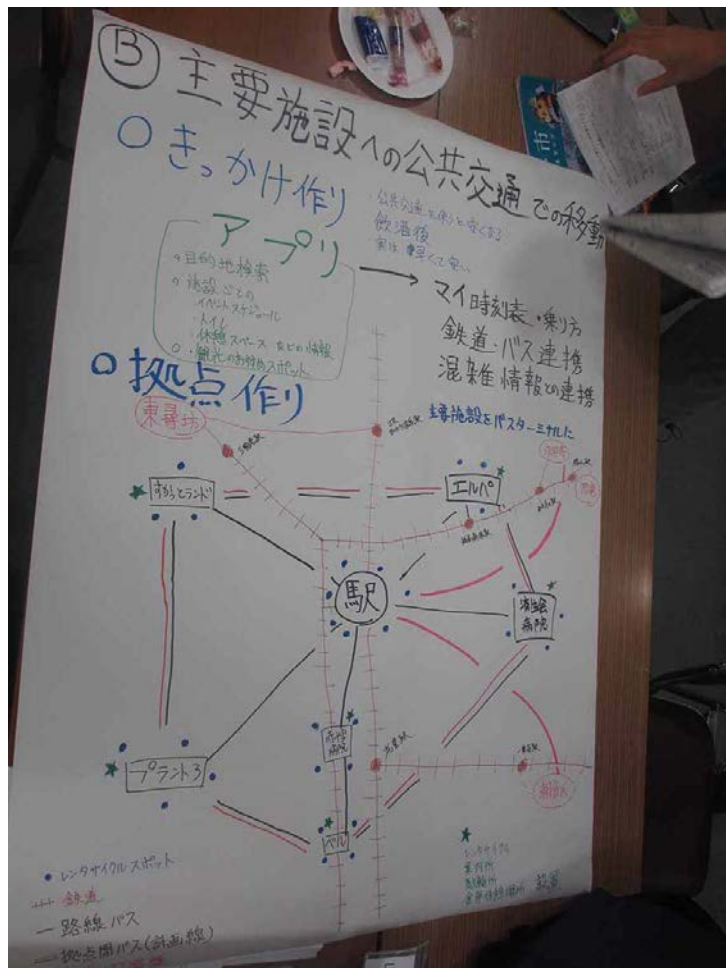


写真 2：B 班の発表資料

福井駅を中心に幹線バス 4 路線が延び、福武線を含めた 5 拠点間の連絡バス、それらの周囲の施設にレンタサイクル等のスポットを設ける



写真 3：A 班発表 若者向けの利用促進を提案

B班の提案となりました。

その他の班ですが、A班は若者に使ってもらうためには、まず知ってもらうことが重要で、公共交通に乗ってもらえるようなイベントを開催し、若者が安く乗れる切符として学生4年間パスなどを発売。スマホで乗車できる機能をつけるなど若者が使いやすくなるアイデアの提案でした[写真3]。C班は高齢者の具体的な行動に着目して、その日に移動する範囲の地図や時刻表、優待カードなどがそろったものが必要との提案でした。持ち運びしやすい保険証サイズが良いが、字は大きくないといけないという制約があるので、ITに慣れた人にはスマホにダウンロードもでき、家族やサービスセンターで紙媒体に印刷できるようにもしたいそうです。D班は公共交通の乗り方を紙媒体や動画、VR（仮想現実）で案内できるアプリの提案でした[写真5]。特にバスは乗り方が複雑なため、乗り方として主に「前乗り先払い後ろ降り」か「後ろ乗り後払い前降り」かの2種類、運賃体系として主に「均一運賃」か「距離制・整理券方式」かの2種類によって、計4パターンぐらいを全国共通で作成しておいて、統一のロゴのもとに公開したいそうです。E班はROBAでもカーフリーデーの際にモビリティセンターを設けて個人の目的別に時刻表を作成して持ち運べるようにした「マイ時刻表」について検討し、こちらも紙媒体とWEBで基本の時刻表を公開し、オープンデータ化によって誰でもデザインや表示の仕方をカスタマイズできるようにするという提案でした[写真6]。詳しくはこのアイデアが福井データチャレンジで公開されますし、参加したROBA会員に聞いてみてください。今回内田さんは用事があって発表前に帰られたのですが、C班、D班、E班の発表担当者をROBA会員が務めました。どうしても意見を多く言う人、よく知っている人が発表することになるので、他の人から発表してくださいと言われることになるのだと思います。B班も私に発表してほしいと言われましたが、普段あまり発表されていない方が発表したほうがためになり、良い機会なので一般市民に説明する練習になるからということで福井市役所の方に発表してもらいました。講演会ではないので、できるだけ一般参加の人が発表するように、少なくとも2回発表機会があったので1回は別の人にゆずるなど、意見交換の場でもあまり強く主張せず回りの意見を引き出すような、どちらかというとフォローに回るコーディネーター役に徹したほうが、公共交通に少しでも興味のある方がレベルアップするようになると思います。

最終発表後には懇親会も開かれ、今後はこのアイデアを募集時に応募してもらいたいと主催者から依頼があり、それをもとにしてアプリの実現につながるよう期待しつつ閉会となりました。[松原 光也]



写真4：C班発表 高齢者公共交通利用支援を提案



写真5：D班発表 乗り方案内を提案



写真6：E班発表 マイ時刻表の活用策を提案

★ 友ちゃんの七尾特派員報告 第25号★

怪速! by.うろし哲
路面ライダー



作／漆崙 耕次

石川県七尾市へお引越し！

特派員報告も25号となりました。

私は、またまたお引越しです。石川県金沢市から石川県珠洲市へ引っ越し、今度は石川県七尾市へお引越しです。今回から七尾特派員報告となります！

最初の今回は、石川県七尾市についてご紹介します。

七尾市は石川県能登半島の真ん中あたりに位置しています。人口は約5万5千人、面積は約320k㎡です。七尾湾には能登島が浮かび、観光地である和倉温泉をかかえています。

食いしん坊の私が気になる物といえば、美味しい物！！

七尾市はお寿司が美味しい！！「寿司王国」としてPRされています。

参考：寿司王国 能登 七尾 HP (<http://www.su-si.net/notomae/>)



七尾のお寿司は、良質な漁場である七尾湾で採れる新鮮で旬な魚介類を使っています。とにかくお魚が美味しい！

お寿司と言えば、特別な時に食べる高級な食べ物というイメージがあります。でも、値段はお店によって様々です。特別な時に食べる様なお寿司もあれば、日常的に食べるお手頃なお寿司もあります。

美味しいお寿司を食べて、和倉温泉でゆったり温泉につかる、なんていう心も体も癒される七尾旅がおすすめです。

編集後記・・・編集委員より一言

内田（発行責任者）

「私自身、最近全国路面電車サミットや全国バスマップサミットに行けてないので残念な思いをしています。来年1月にLRT都市サミットと路面電車サミットの連続開催があります。なんとか参加できないか思案中です。」

林(変集長)

「12月2日（土）田原町で「震災復興とフォークソングを考える」（15：00～16：00）みんな来てね！

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL：0776-25-7968

e-mail：roba@mbh.nifty.com

URL：http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/